

ようじえんだより 2016年度8月号

十日町幼稚園 〒948-0083 十日町市本町西1丁目253番地
Tel:025-752-2068 Fax:025-752-2189

8月主題『ゆったりと』

主題聖句：平和を実現する人々は、幸いである マタイ5章9節

☆ 0～2歳児：神様が創られた自然にふれる。いろいろな人と出会って楽しい経験を
する。家族や保育者とゆったりした時間を過ごす。好きな場所で遊びが広がる。

☆ 3～5歳児：平和を考え、願い、共に祈り、平和に過ごす。保育者や友だち、家族
とゆったりと過ごす。様々な人や環境に出会い、いろいろなことを経験する。

ふるさとを離れて

広島出身の私にとって「8月6日」は特別な日でした。平和記念式典が行われている市内中心部を抜けて、家族みんなでお墓参りをする日でした。コンビニの登場でだいぶ変わりましたが、それでもこの日はお休みのお店も多く、市内全体が喪に服するような空気に包まれる日でした。しかし大学進学を機にふるさとを離れた最初の夏に、「8月6日」は広島以外では「普通」の日であることを知りました。私自身にとってはちょっとしたショックでしたが、私自身にとってもその後しばらくは「8月6日」は「普通」の日となっていました。

忘れられることの悲しさ

私自身が「被爆者の子孫」であることをその後自覚したのは、東日本大震災時における福島第一原発事故でした。当時、私はお隣の茨城県に住んでいました。避難する人たちや退園して西日本や北海道に移住される方も出ました。私もせめて子どもだけでも避難させるべきか迷ったのですが、地元の方々から「園長は逃げた」と言われたくなくて、すぐに子どもを避難させること

ができませんでした。その時、「どうせ被爆者の子孫だし、いまさら避難してもしょうがない」と言って何とか自分の気持ちに折り合いをつけようとしていました。茨城県自身が被災地であることを「忘れられている(知られていない)」中で、自分の中に生じた何とも言えない葛藤に、切なさとも子どもへの申し訳ない気持ちが交錯したことを思い出します。

昔を語り伝えるということ

人類史上初めて原子爆弾が落とされた日も忘れられるくらい、私たちは日々忙しく目の前のことに追われています。子どもたちとゆっくり語り合い、伝えるべき「価値観」を伝える暇もないほどです。しかしこの国には夏にはふるさとに帰り、家族・親族が集まる良い風習があります。昔の悲しみや苦労や喜びを聞く中で生かされていることへの感謝を感じ、また昔を語る中で、語るほうも癒しと慰めを感じることがあります。そのゆったりした空間に平和の尊さを感じる夏を過ごしたいと願います。

園長：久保田愛策

年間主題『平和とともに』

主題聖句：キリストはわたしたちの平和であります
新約聖書 エフェソの信徒への手紙 2章14節